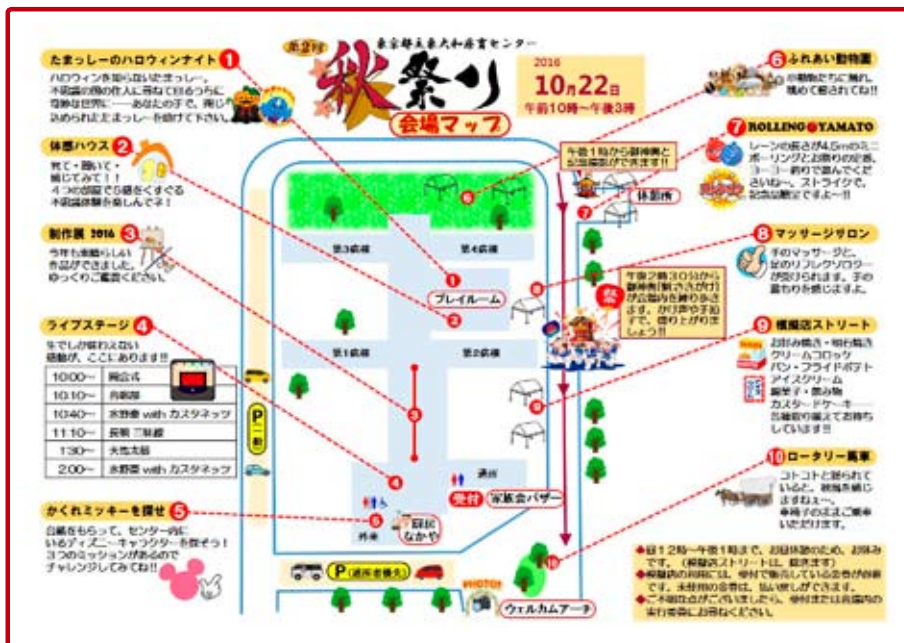


そよ風

- 1～3 題名のある秋祭り
- 4～6 第 53 回重症心身障害児（者）を守る会全国大会に参加して
- 第 42 回全国重症心身障害学会学術集會に参加して
- 第 27 回重症心身障害療育学会学術集會に参加して
- 院内総合防災訓練
- 7 My WORLD
- 8 自衛消防審査会を終えて
人事異動・編集後記



「 題名のある秋祭り 」

秋祭り実行委員 生活支援科主査 高井 直人

幾度となく行事の運営に携わっていても、今回はどんなことができるのかとその度に頭をフル回転させます。2年後の大規模改修を控えた仮設棟設置によるグラウンドの使用制限、利用者やご家族の高齢化による参加時間の減少、感染症対策による模擬店で扱う食品の衛生管理強化などなど……、できないことが増えていく中で、それでも何かできることはないかと知恵を出し合うところから実行委員会はスタートしました。そうしてできあがった、第2回秋祭り。では早速、巡ってみましょう。

プレイルームでは、人気テーマパークの〇〇マンションさながらの【たまっしーのハロウィンナイト】、

見る・聞く・感じる…に全力を注いだ【体感ハウス】の2企画が賑わっていました。どちらもお客さんが途切れることなく、訪れています。



たまっしーのハロウィンナイト



体感ハウス

続いて、今年も力作がずらりと並んだ【制作展 2016】。アートな空間を後にすると、エントランスホールの【ライブステージ】から、臨場感あふれる演奏が聞こえてきました。合唱、三味線長唄、和太鼓、バンド演奏と多彩なプログラムは、どれも聞いてみたくなるものばかり。ずっと聞いていたいところですが、先へ進みましょう。ステージ先には、



ライブステージ

かくれミッキーを探せ



【かくれミッキーを探せ】の看板が…。会場内に潜んでいるキャラクターを探してシールをもらうという、例年のスタンプラリーの進化系とも呼ぶべき企画。ミッションをクリアすると、あのお城の前で記念写真を撮ってもらえるのか…。

お次は、外へと向かきましょう。ウェスタンな音楽と共に、馬車がロータリーを回っているではありませんか!! これが今年のサプライズ企画【ロータリー馬車】か? 遠目にはどう見ても馬だけど、足元に目を向けると、違和感が…。



ロータリー馬車

模擬店ストリート



立って【模擬店ストリート】が活気づいていますねえ。

お腹を満たした後は、からだや心の癒しがほしくなりますね。おや、ちょうどいい所に【マッサージサロン】がありました。手のマッサージと足のリフレクソロジーで、気持ちよくなっちゃっていますか? 手の温もりに勝るものは、ありませんよね。



マッサージサロン

その先の賑わいは、もう一つの癒し企画、【ふれあい動物園】です。ひよこにうさぎ、ひつじ、ポニー、…ん!! にしき蛇…にも癒されるのか? でも、笑顔だ…。動物には、言葉を越えて伝わるものがあるんですね。

おや、お向かいで賑わっているのは、ミニボーリングとヨーヨー



ふれあい動物園



ROLLIG YAMATO

釣りの【ROLLING YAMATO】ですね。どちらも丸くて転がるものだから、このネーミングなのかなあ?

さて、秋祭りもいよいよ終盤に近づいてきましたね。外周道路からは全長 5 m の大御神輿が、第 3 病棟からはかわいい子供神輿が練り歩き始めたようです。わっしょいわっしょい、そいやそいやのかけ声、手拍子、鳴り物…色々な音が重なり合っています。秋祭りの参加者が、一体となっています。日本の伝統芸能、御神輿の力ってすごいですよね。自然にみんなを一つにしてしまうのですから。



では、冒頭に戻ります。今回の秋祭りのテーマ、題名は『よそくをうわまわる』です。私たちは、経験したことに基づいて大よその予測を立てています。例えば、〇〇レストランだったら、だいたいこんなサービスで、こんな味だろうなあ…といった具合です。ところが、その予測を越えられてしまった時、どうなると思いますか? そう、思わず感動してしまうんです。えっ!! ほんとに!! という言葉と共に。自称文字職人を称する方が、そのことを文字で表現しています。今回、馬の前足をしながら、わずかな隙間から『うそっ!! 本物の馬かと思った。人なの?』という驚きの声と笑顔をたくさんいただきました。ニンジンよりもその声と笑顔が、何よりのエネルギー源でした。予測を上回ることは簡単ではありませんが、それが何よりの喜びだから、これからも追い求めていこうと思います。



第 53 回重症心身障害児(者)を守る会全国大会に参加して

看護部長 桑原 光代

平成 28 年 6 月 18 日(土)・19 日(日)の 2 日間、青森市、ホテル青森他にて守る会の会員及び行政を含む関係者約 950 人が参集しての全国大会が開催されました。当センターからは、倉田院長と私の 2 人が参加致しました。

大会初日は、厚生労働省障害福祉課長の田中佐智子氏による行政説明として「障害保険福祉施策の動向」について講演されました。課題としては、障害者のニーズに対するきめ細やかな対応を強調されていました。その後、国立施設部会、重症児施設部会、在宅部会の 3 つの分科会に分かれて討論が行われました。私は、重症児施設部会に参加いたしました。そこでは、「法施行 3 年後の見直しに係る法改正への取り組み」として厚生労働省障害福祉課障害支援専門官の小島裕二氏と社会福祉協会旭川荘理事長末光茂氏がパネリストとして講演されました。成長発達に応じた施設内での支援サービスの活動の充実や、在宅や地域での支援について各人で考えていくことの必要性を強調されていました。



2 日目は、全体会として「みんなで語ろう」でした。熊本地震に対する早急な物資等についての支援など、お礼の言葉が多く聴かれました。また、親の立場、兄弟の立場より今まで苦労してきたこと、親も高齢となり今まで出来たことが出来なくなった時を考えて、いろいろと整理しておかないと残された兄弟姉妹が大変な思いをすることなど、会場からはお子さんに対する熱い思いが語られました。

式典では、親を代表して施設入所や在宅の方 2 人からの発表がありました。大会最後には、毎年恒例となっている守る会としての「要望書」が読みあげられ参加者の拍手での合意となりました。今回は、東北の青森での開催にも関わらず、震災を受けた熊本県の方を含む全国から多くのご両親やご家族の方の参加に驚くと同時に、重症児者に関わる課題が多い中、皆で協力しながら前向きに取り組んでいる姿勢に感銘を受けました。これからも、家族会と良好な連携を保ち、センター入所者の方や在宅での重症児者支援にもさらに力を注げるようにと思いを募らせた大会でした。

第 42 回全国重症心身障害学会学術集会に参加して

第 4 病棟 指導員 沖倉 裕一



2016 年 9 月 16 日(金)～17 日(土)に、北海道札幌市の札幌市教育文化会館で開催された第 42 回全国重症心身障害学会学術集会に参加させていただきました。

まず、開会の辞では北海道済生会西小樽病院の院長であられる津川会長から、今回のテーマは「在宅支援」であるとお話がありました。在宅で生活される重症児・者の療育は、

重症児施設で担うことが求められている。特に広大な北海道では、地域によって十分な医療、療育を受ける機会が乏しいのが現状である。地域に限らず、どこに住んでいても等しく受けられるようにすることが課題である。その方法や内容について、将来も見据えたディスカッションがしたい。とのことでした。北海道だけでなく、日本全国で様々な理由から同様な地域があると思います。在宅だけでなく、施設で生活される方々も含め、全ての方々が安心して生活できるようになって欲しいと願いつつ、この学会に臨みました。当センター



からは、口演 3 題、ポスターセッション 1 題の計 4 題を発表致しました。発表された職員は堂々とまた、凜として、わかりやすく参考になる貴重な発表であったと思います。発表者の皆さん、お疲れ様でした。また、演題は当センターの 4 題を含め、251 題ととても多く多岐にわたります。会館内にある 7 つの会場を使用し同時進行で行われるため、分身の術でも使わない限り、全ての発表を聴くことはできません。慎重にプログラム・抄録集とにらめっこします。私は生活支援科職員ですので、生活支援・QOL に関する演題を中心に視聴しました。他施設でも、当センターと同様な課題に直面しており、それを職員が試行錯誤しながら QOL の向上に努めていました。私も、今回の学会で学んだことを活かし、当センターの利用者、ご家族の方々が安心して、豊かで楽しく過ごされるよう取り組んでいきたいと誓い、北の大地をあとにしました。

あっ！余談ですが、会場のすぐ近くの大通り公園では、さっぽろオータムフェスト 2016 なるものが開催されており、北海道全土から選りすぐりのご当地グルメが集結していました。もちろん、北海道ならではの食材に舌鼓！どれも美味しく、北海道グルメを堪能しました。あしからず。

第 27 回重症心身障害療育学会学術集会に参加して

看護部生活支援科主任 第 1 病棟 廣川 太一郎



10 月 13 日 (木)、14 日 (金)、熊本県熊本市のエルセルモ熊本で第 27 回重症心身障害療育学会学術集会が開催されました。この学術集会は、重症心身障害児者の療育に関わる職員が日常の療育内容の研究発表を行い、知識・技能の向上、そして療育事業の向上と発展を目的とし開催されています。

当センターからは、第 2 病棟の川畑看護師と鈴木看護師が「高齢化に向かう重症心身障害者の家族の思い」について発表を行いました。ご家族の思いに寄り添い、利用者さんの代弁者であるご家

族の要望や不安が何かを受け止めた内容は、参加された他施設の方々も興味深く聞き入っていらっしやいました。

当センターに限らず、全国の施設で利用者の高齢化・重症化が進み、療育活動も QOL 向上に加え、利用者のケアやご家族とのコミュニケーション等、より高度な力量が求められる状況となっていることがわかりました。また、在宅支援、成年後見人、虐待防止、震災対策等、重症心身障害児者を取り巻く多くの問題を再確認しました。すでにセンターの課題でもあるこれらの問題に対し、生活支援科職員の立場で何ができるのかをよく考え、実践していかなければならないと改めて感じた学術集会でした。

今年 4 月の震災の影響により、会場の変更を余儀なくされましたが、予定どおり熊本県でこの学術集会が開催されました。開催にあたり多くの方々のご苦勞があったと思います。重症障害児者施設の震災時の対応等の貴重なお話を伺うことができ、タクシーの運転手さんはじめ多くの熊本県の方々の笑顔にふれ、参加できて本当に良かったと思います。同じ九州（大分県別府市）出身として、1 日も早い復興を心からお祈りしています。

院内総合防災訓練

事務部庶務係 茂戸藤 貴志



2016 年 4 月に発生した熊本地震を受け、センターでも地震に特化した防災訓練を 6 月 29 日（水）に実施しました。

熊本地方の各種施設では建物が大きく破損・崩落するなどの被害はなかったという話があり、訓練の第 1 部では、建物設備被災なしの想定で、行方不明者（ケガ人）を発見し・救護所まで連れて行く訓練を軸に行い、第 2 部では、常に実施する（訓練用）消火器操作訓練に加えて、災害時には職員が使用する避難用具（避難ロープ・避難梯子）を実際に使用しました。

第 1 部は、細かいところで再確認を行わなければならない点もありましたが、大きな混乱もなく全体的に迅速に動けており、センター職員の頼もしさを感じました。

第 2 部ではあまりお目にかからない避難ロープが注目を集めました。センターは 1 階分の高さが一般のマンションなどに比べるとやや高く、避難梯子の 4 階→3 階でも驚く高さですが、5 階から身を乗り出してロープ一本に全体重を預け、3 階までぶら下がり降りる避難ロープに、体験者はもちろん見学者もハラハラドキドキでした。

実際に体験してみないと分からない事も多いため、今後も体験型訓練を全体訓練で行います。職員の皆さんは積極的に参加して、防災の知識を深めましょう。

当センターに勤務して、2 年半あまりになります。私は山手線の駅まで歩いて行ける大都会（笑）に住んでおり、23 区外の知識が皆無。当センターの所在地は東大和市ですが、西大和も北大和も南大和もなさそう。同様に、近隣の東久留米も東村山も東伏見も「東」ばかり・・・何故だろう？

思い当たるのは西に同名の地域があることで、神奈川県大和市や奈良県（こちらは、旧名称が大和の国）。はるか西の福岡県には久留米市。伏見は京都府。でも、私の少ない学識では西の村山は思い当たらず、はるか北には山形県村山市があるのですが・・・名君、上杉鷹山で有名な米沢周辺と合わせて、村山置賜（おきたま）地方と呼ばれているところで、そこから見れば東村山ではなく南村山でもよかったのに・・・



調べてみると、「東」を冠する由来は、位置関係を考慮しつつもそれぞれ微妙に違うようですが、東京都の中だけで見ると、どれも西部に位置しているのに、「東」の地名を持つ地域が集中して多いのは不思議な気がします。(今泉幸久)

思うこと

感じること

伝えたいこと

Vol.2

花や自然が大好きです。花についてもっと知りたいと思い、花の認定試験を受験したこともあります。当センターに着任し、四季折々の草花の豊かにわくわくしました。4 月の桜。桜が丘の名の通り、まさに桜の園になります。桜吹雪の下で、利用者さんと職員が微笑んで見上げていたシーンは忘れられません。玄関通りの花みずきも素敵です。白、ピンクの花が咲き、秋には赤い実を付けます。そして皇帝ダリア。今年は例年にも増して台風が多く、2 メートル以上に成長していた枝が折れました。添え木をしてあげたいと思いながら通勤していましたが、ある日優しい方によって添え木をしていただきました。皇帝ダリアが天高く咲く日も、もうすぐです。今年も大輪の花を咲かせること



昨年の皇帝ダリア



添え木で無事復活

でしょう。

沙羅双樹、ゆずり葉、くちなし、ヘキソカズラ、ねじ花、それぞれの花のいのちに愛しさを感じます。いつまでも自然豊かなセンターであってほしいと願っています。(佐藤幸子)

自衛消防審査会を終えて

事務部医事係 土出 美幸



平成 28 年 9 月 15 日(木)に野山北公園運動場にて、当初予定されていた予定より天候不順のため 2 日遅れて、平成 28 年度の自衛消防審査会が行われました。

当センターは、指揮者と 1 番隊員の 2 名で行われる 2 号消火栓の部に参加し、全 15 隊により訓練の成果を披露しました。

2 日前にメンバー交代があり、補欠から正隊員へと繰上げとなった私は、流れを覚えることに精一杯で細かい動作の確認をする機会が本当に少なかったです。その限られた

時間の中で、1 番員の第 3 病棟の森田指導員にご迷惑をかけながらも、本番の演技を終えることができました。

もちろん出動は無い方が良いことですが、有事の際には今回の貴重な経験を生かして行動していきたいと思います。

今回参加にあたって勤務調整や練習にお付き合いいただいた方々、また暖かい応援等でご協力くださった方々、本当にありがとうございました。

人事異動

10 月 31 日付退職

宮岡 恵美子 (看護師)

編集後記

まだ暑い日もありますが、だんだんと秋めいてきましたね。近くの公園では、どんぐりが落ちていました。ちゃんと運動して、美味しくご飯を食べて、元気ががんばりたいと思います。(N)

秋の行事満載の「そよ風」、お楽しみいただけただけでしょうか？ひと足ひと足、秋の気配が深まってきましたね。

「スポーツ」「読書」「紅葉」「味覚」とどれも魅力的な秋、私は全部楽しみたいです。みなさんはどんな「秋」を楽しみますか？(TT)



そよ風第 86 号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成 28 年 11 月 15 日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10

☎ 042-567-0222

印刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索